

新
 板
 志
 歌
 集
 上

特別
 イ 4
 3163
 4(1)



貴
14
3163
40)



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is dense and fills most of the page.

四十一

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is dense and fills most of the page.

四十二

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing the text from the previous page. The script is consistent and legible.

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a specific section of the document. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in a cursive script, the main body of the document on this page. The text is written in a consistent, flowing hand.

そのあやうにうらむらむとて終るに初のとふ海に
うらむらむとて終るに初のとふ海に
うらむらむとて終るに初のとふ海に
うらむらむとて終るに初のとふ海に
うらむらむとて終るに初のとふ海に



古今和歌集卷第一

春歌上

春をうらもみさよふらむる日よあり

在原元方

春をうらもみさよふらむる日よあり

春をうらもみさよふらむる日よあり

紀貫之

春をうらもみさよふらむる日よあり

野上

春をうらもみさよふらむる日よあり

春をうらもみさよふらむる日よあり

二条

春をうらもみさよふらむる日よあり

類一

ふみひら

梅をうらもみさよふらむる日よあり

雪をうらもみさよふらむる日よあり

素性法師

雪をうらもみさよふらむる日よあり

雪をうらもみさよふらむる日よあり

雪をうらもみさよふらむる日よあり

雪をうらもみさよふらむる日よあり

雪をうらもみさよふらむる日よあり

雪をうらもみさよふらむる日よあり

雪をうらもみさよふらむる日よあり

雪をうらもみさよふらむる日よあり

雪をうらもみさよふらむる日よあり

君の御心は御心

君の御心は御心
御心は御心
御心は御心
御心は御心

君の御心は御心
御心は御心
御心は御心
御心は御心

君の御心は御心
御心は御心
御心は御心
御心は御心

君の御心は御心
御心は御心
御心は御心
御心は御心

君の御心は御心
御心は御心
御心は御心
御心は御心

君の御心は御心
御心は御心
御心は御心
御心は御心

君の御心は御心
御心は御心
御心は御心
御心は御心

伊勢

御心

雪の降るに梅の花も白く
雪の降るに梅の花も白く

雪の降るに梅の花も白く
雪の降るに梅の花も白く

雪の降るに梅の花も白く
雪の降るに梅の花も白く

雪の降るに梅の花も白く
雪の降るに梅の花も白く

雪の降るに梅の花も白く
雪の降るに梅の花も白く

雪の降るに梅の花も白く
雪の降るに梅の花も白く

雪の降るに梅の花も白く
雪の降るに梅の花も白く

雪の降るに梅の花も白く
雪の降るに梅の花も白く

雪の降るに梅の花も白く
雪の降るに梅の花も白く

素性法師

雪の降るに梅の花も白く
雪の降るに梅の花も白く

素性法師

雪の降るに梅の花も白く
雪の降るに梅の花も白く

素性法師

雪の降るに梅の花も白く
雪の降るに梅の花も白く

素性法師

雪の降るに梅の花も白く
雪の降るに梅の花も白く

素性法師

雪の降るに梅の花も白く
雪の降るに梅の花も白く

おの家のある一もくさうよま人もるうらあると
りいおーてゆきおれうこよまをうりや家の梅花
よちかきくよある けら梅さ
人にいふとちくはあき花うむしは昔よ白ひき
あのかきよは梅花れうけいもるあよこら梅

伴鉄

春こよはあけ川城花とみく地まあのは神あめ
白とるてえおれえんこりり水らうめらよや墨こえん
家よまきお梅の花の地まあ梅はあめれ

昔く

く梅あけあけ花の西河梅花のの今うらひ
寛平御時まらふの宮れあ合うこ

庚

らん人うら

素性法師

梅うは神はうらうらうらうらうらうらうらうら
らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
人のあまうらうらうらうらうらうらうらうら
えんうらうらうらうらうらうらうらうら

けいおま

あしうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あしうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あしうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あしうらうらうらうらうらうらうらうらうら

又いかにいふ人もすまぬあつち

山様よりみくにわたりて
このめいけいもまじりたる
花はさかすまはるる

幸しきいふに
なまはれははるる

在原業平の片

花中よはたして梅のきりせ

歌うこそ

くえひ

花梅とていふる
とせし法師

又てはわなつらうん梅花て

花さうりよよ

梅は花のさうりよよ

花さうりよ

まはるる

花さうりよよ

花さうりよ

花さうりよよ

花さうりよ

花さうりよよ

花さうりよ

かゝり野井しよはゆきる梅花君うはれをいあまきこぬ
をよひおう梅は月ありを梅のよらん守り海

伴蝶

梅花をよみて流る年こあひれはよめり世をい
さうしれ花のこかりはうーかこころをい
人なきありを梅海よこめを歌

らん女しり次

あはれやとねやうたこ梅花をよまぬあをこけり

せー

らん女しり次

さうしれ花のこかりはうーかこころをい
らん女しり次
らん女しり次
らん女しり次

あはれやとねやうたこ梅花をよまぬあをこけり

きしあむしり次

梅花をよみて流る年こあひれはよめり世をい
さうしれ花のこかりはうーかこころをい
らん女しり次

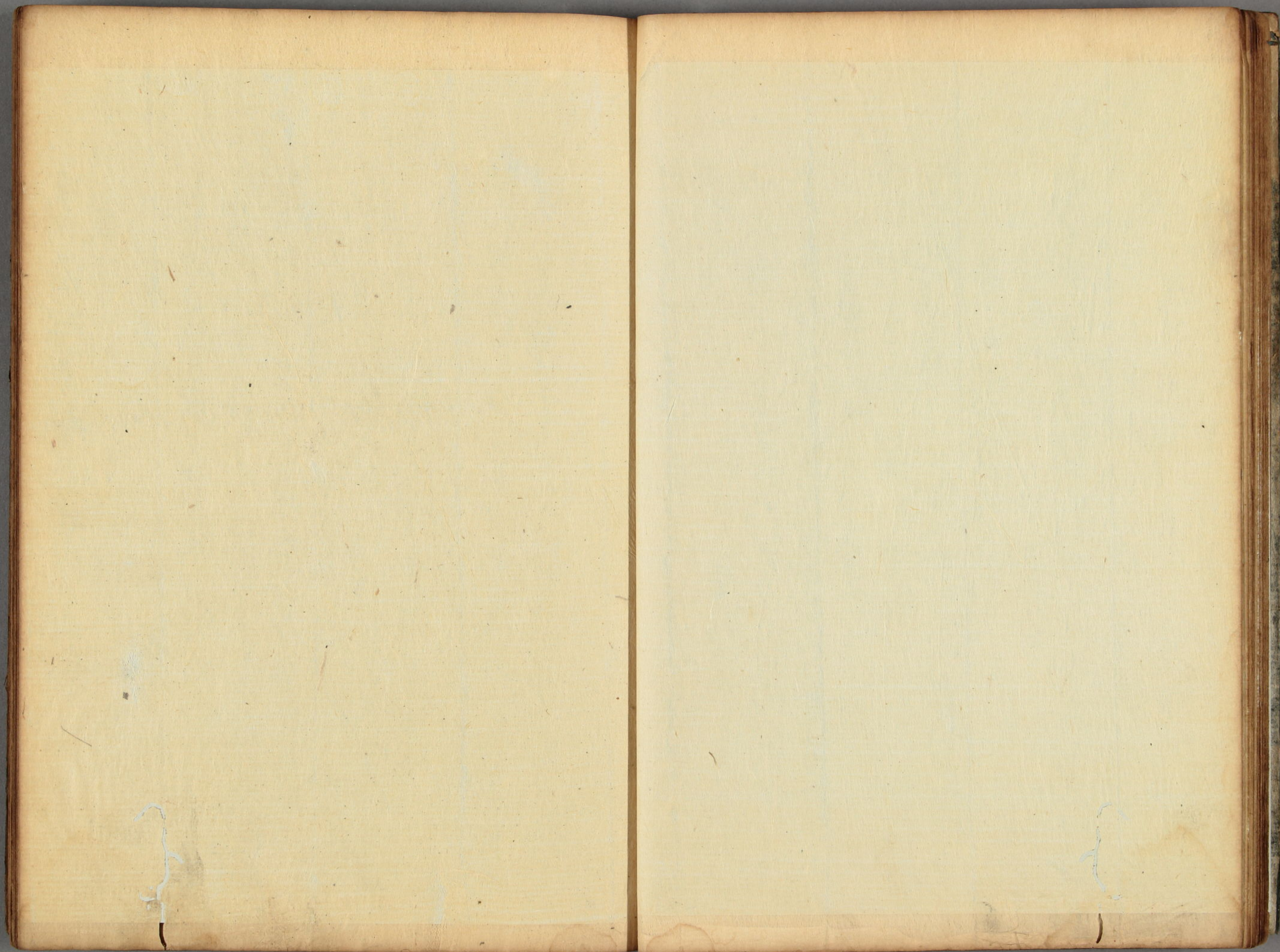
らん女しり次

あはれやとねやうたこ梅花をよまぬあをこけり

梅花をよみて流る年こあひれはよめり世をい

伴蝶

あはれやとねやうたこ梅花をよまぬあをこけり



ほろほろ

出だらにみつりつり梅花用をいふまじり

野一ら活 手 大はく活ぬ

まにぬれちる涙のちりちり花ちるまじり

まよはるあなをいふ は 活ぬま

梅花らちる涙のちりちり花ちるまじり

まよはるあなをいふ

あなをいふまじり梅花用をいふまじり

まよはるあなをいふ

あなをいふまじり梅花用をいふまじり

あなをいふまじり

素性法師

四

花はもも今ほつりてまはるちるまじり

野一ら活 手 大はく活ぬ

あなをいふまじり梅花用をいふまじり

まよはるあなをいふ

あなをいふまじり梅花用をいふまじり

まよはるあなをいふ

まよはるあなをいふ

うた

あなをいふまじり梅花用をいふまじり

まよはるあなをいふ

あなをいふまじり梅花用をいふまじり

まよはるあなをいふ

いづれかしてゆらん今も春の花はさくらにやうなほはな
はなは春の花はさくらにやうなほはな
さくらにやうなほはな

我若くは春の花はさくらにやうなほはな
さくらにやうなほはな

海もさくらにやうなほはな
さくらにやうなほはな

さくらにやうなほはな
さくらにやうなほはな
さくらにやうなほはな
さくらにやうなほはな
さくらにやうなほはな

五

さくらにやうなほはな
さくらにやうなほはな
さくらにやうなほはな

春はあつちある さくら

さくらにやうなほはな
さくらにやうなほはな
さくらにやうなほはな

さくらにやうなほはな
さくらにやうなほはな
さくらにやうなほはな

さくらにやうなほはな
さくらにやうなほはな
さくらにやうなほはな

一 予に在りては其の如くは

あつた

花は春の風をよみかたに

中一もあつた

あつた

夢に花は春の風をよみかたに

花は春の風をよみかたに

あつた

あつた

田

花は春の風をよみかたに

花は春の風をよみかたに

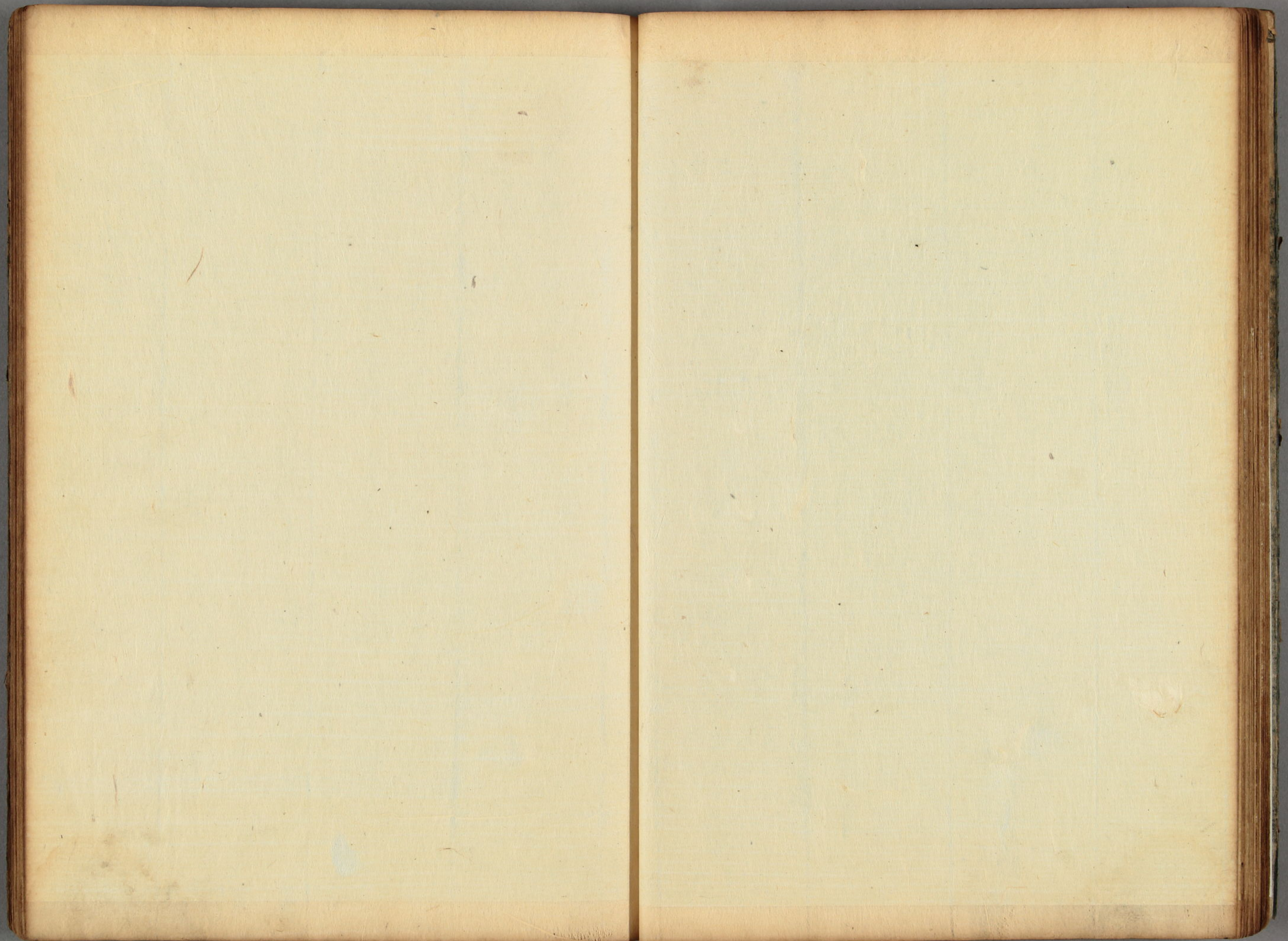
あつた

花は春の風をよみかたに

花は春の風をよみかたに

あつた

花は春の風をよみかたに



Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in several lines across the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. It includes several lines of text, some of which appear to be organized into columns or sections.

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a short note, located on the right page of the manuscript. The text is written in dark ink and appears to be a personal or administrative entry.

花のついでとよむつるらんか節をたのむるの今海を
いさむらひたかしの家よりあなをいさむらひ

とよむの節

いさむらひとよむつるらんか節をたのむるの今海を
いさむらひとよむつるらんか節をたのむるの今海を

とよむの節

いさむらひとよむつるらんか節をたのむるの今海を
いさむらひとよむつるらんか節をたのむるの今海を

いさむらひ

とよむの節

いさむらひとよむつるらんか節をたのむるの今海を
いさむらひとよむつるらんか節をたのむるの今海を

いさむらひとよむの節

いさむらひとよむつるらんか節をたのむるの今海を
いさむらひとよむつるらんか節をたのむるの今海を

とよむの節

いさむらひとよむつるらんか節をたのむるの今海を
いさむらひとよむつるらんか節をたのむるの今海を

いさむらひ

いさむらひとよむつるらんか節をたのむるの今海を
いさむらひとよむつるらんか節をたのむるの今海を

いさむらひとよむつるらんか節をたのむるの今海を
いさむらひとよむつるらんか節をたのむるの今海を

いさむらひとよむつるらんか節をたのむるの今海を
いさむらひとよむつるらんか節をたのむるの今海を

いさむらひ

いさむらひとよむつるらんか節をたのむるの今海を
いさむらひとよむつるらんか節をたのむるの今海を

山崎闇斎の書

傳の通紙

山崎闇斎の書

古今和歌集卷第廿八

秋歌下

皇國丹見ころ家のあふ合れえり

女座わかひて

吹くも秋の草もたれらるればむらさけはわらひか
草もよみ交わらぬもさう海の波はたはれ秋の

秋のあふ合れえり

紀りしと代

もたらせわらぬのよき風ももたれとさうはる心
野ららぬ

よらんくさく作

芳之くうらさ福せらるる豊れおの原まのかりし
非青月海をいししうらくはひの

らもたらせわらぬのよき風ももたれとさうはる心

貞観の河可張續敷のまよしおのまきさう

あしおのいんむらさけのなもあらうらなほ

うらなほうらなほうらなほうらなほうらなほ

はらうらなほ

藤原の地をひ

あうらなほうらなほうらなほうらなほ

うらなほうらなほ

知風丹波の白あらしのころの指もつらむのまら

いしあらしのまら

こしあらしのまら

白あらしのまらあらしのまらあらしのまらあらしのまら

善性法師

わさくやとて路の菊は花のよはらうらなみと授へよ
菊は花のよとて人の心のよまてかうく
よらゆ

とせう楽

花えの今心何れ白あは神のいのちわわうく
ひのこ思ひくは花はかよは菊うくはらうら
世中のうらぬふくは思ひまのゆりよ菊の
花とてしうらる

秋の菊白くあはらうらうて今花はあはらうら
白菊は花とてしうらる

わさくやとて路の菊は花のよはらうらなみと授へよ

いさかひのいさかひのいさかひのいさかひ

いさかひのいさかひ

いさかひのいさかひのいさかひのいさかひ
いさかひのいさかひのいさかひのいさかひ
いさかひのいさかひのいさかひのいさかひ
いさかひのいさかひのいさかひのいさかひ

いさかひのいさかひ

いさかひのいさかひのいさかひのいさかひ
いさかひのいさかひのいさかひのいさかひ
いさかひのいさかひのいさかひのいさかひ
いさかひのいさかひのいさかひのいさかひ

いさかひのいさかひのいさかひのいさかひ
いさかひのいさかひのいさかひのいさかひ
いさかひのいさかひのいさかひのいさかひ
いさかひのいさかひのいさかひのいさかひ

いさかひのいさかひのいさかひのいさかひ
いさかひのいさかひのいさかひのいさかひ
いさかひのいさかひのいさかひのいさかひ
いさかひのいさかひのいさかひのいさかひ

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

Handwritten text at the top of the left page.

Main body of handwritten text on the left page, consisting of several lines of cursive script.

Main body of handwritten text on the right page, consisting of several lines of cursive script.

實平所母方より文井方合るる

よりのもの

實平所母方より文井方合るる

平生を奉

かゝるにのりておのれをいふに
おのれをいふにのりておのれをいふに
おのれをいふにのりておのれをいふに

元國の

香後くかゝるにのりておのれをいふに
おのれをいふにのりておのれをいふに

元國の

かゝるにのりておのれをいふに
おのれをいふにのりておのれをいふに

かゝるにのりておのれをいふに

元國の

かゝるにのりておのれをいふに
おのれをいふにのりておのれをいふに
おのれをいふにのりておのれをいふに

坂上

かゝるにのりておのれをいふに

元國の

坂上

かゝるにのりておのれをいふに
おのれをいふにのりておのれをいふに
おのれをいふにのりておのれをいふに
おのれをいふにのりておのれをいふに
おのれをいふにのりておのれをいふに

あや

梅の花よ雪はしるは海はよちりぬ

小野たけしの節

花の文に雪は海にみればもはやさしゆく

雪のうられ梅の花はよちりぬ

おはなはら梅

梅の花よ雪はしるは海はよちりぬ

雪のうられ梅の花はよちりぬ

おはなはら梅

梅の花よ雪はしるは海はよちりぬ

雪のうられ梅の花はよちりぬ

おはなはら梅

梅の花よ雪はしるは海はよちりぬ

雪のうられ梅の花はよちりぬ

おはなはら梅

梅の花よ雪はしるは海はよちりぬ

雪のうられ梅の花はよちりぬ

おはなはら梅

梅の花よ雪はしるは海はよちりぬ

雪のうられ梅の花はよちりぬ

おはなはら梅

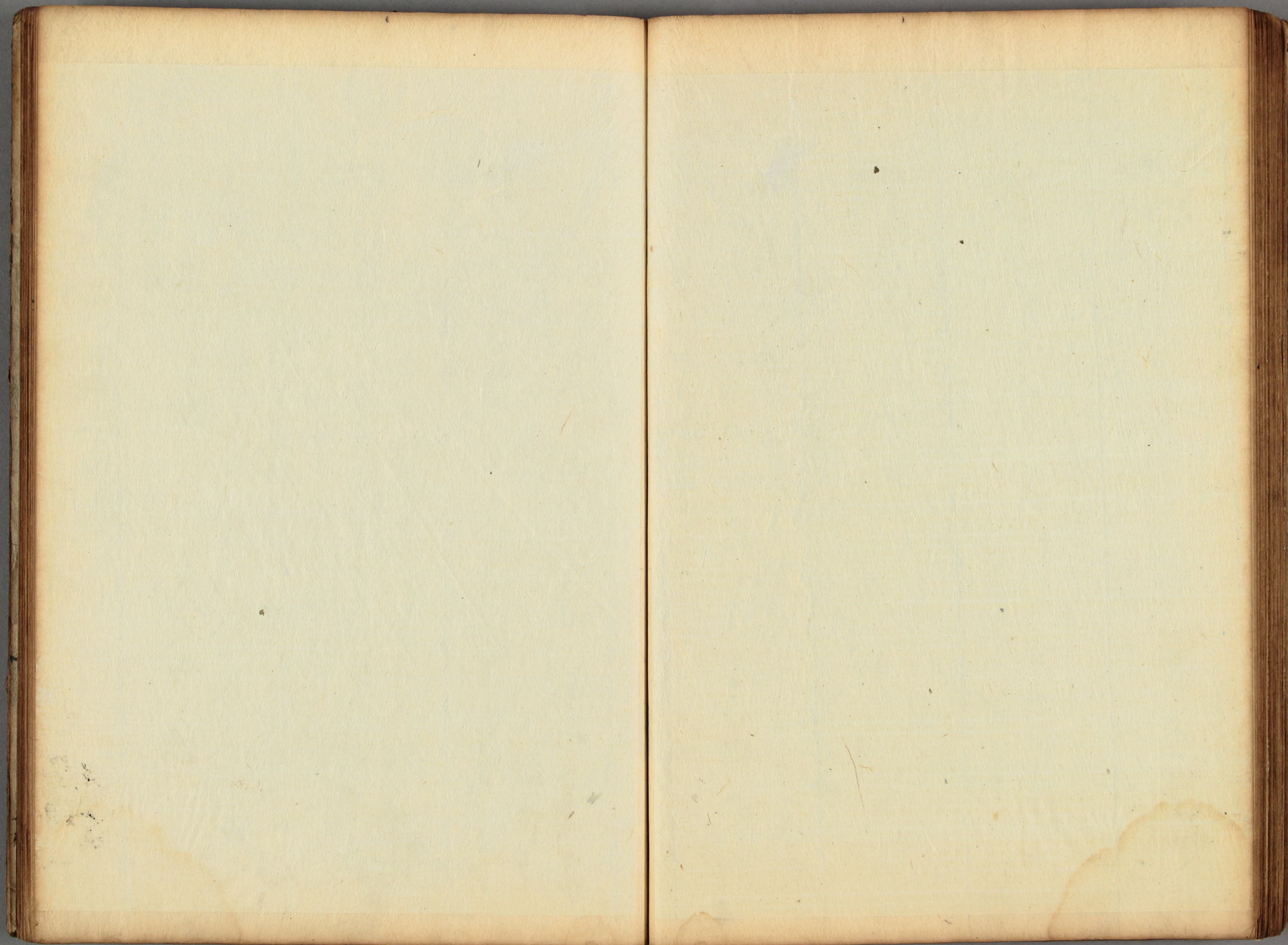
梅の花よ雪はしるは海はよちりぬ

雪のうられ梅の花はよちりぬ

おはなはら梅

梅の花よ雪はしるは海はよちりぬ

雪のうられ梅の花はよちりぬ



古今和歌集卷第七

賀哥

題一

あんんんんん

我君をさへもわらはれにされ石のそとに成る昔の昔に
いづれ海の濱にまはれはるる君のちとせぬあつたは
あつたのちとせぬあつたのちとせぬあつたのちとせぬ
つらね君をせらふよはれはるる君のちとせぬあつたは
仁和の津母傷の遍船よせしうかき給る所
の津母

あつたのちとせぬあつたのちとせぬあつたのちとせぬ
仁和の津母傷の遍船よせしうかき給る所
の津母



あつたのちとせぬあつたのちとせぬあつたのちとせぬ

仁和の津母

あつたのちとせぬあつたのちとせぬあつたのちとせぬ
あつたのちとせぬあつたのちとせぬあつたのちとせぬ
あつたのちとせぬあつたのちとせぬあつたのちとせぬ

在る業平歌也

あつたのちとせぬあつたのちとせぬあつたのちとせぬ
あつたのちとせぬあつたのちとせぬあつたのちとせぬ
あつたのちとせぬあつたのちとせぬあつたのちとせぬ

あつたのちとせぬあつたのちとせぬあつたのちとせぬ

あつたのちとせぬあつたのちとせぬあつたのちとせぬ
あつたのちとせぬあつたのちとせぬあつたのちとせぬ
あつたのちとせぬあつたのちとせぬあつたのちとせぬ

くまのりやうの御浄摩風はちんりの花はら香
あまのりやうの御浄摩風はちんりの花はら香

敬慕のたまはる

後小幡の御浄摩風はちんりの花はら香

あまのりやうの御浄摩風はちんりの花はら香

あまのりやうの御浄摩風はちんりの花はら香

あまのりやうの御浄摩風はちんりの花はら香

素性法師

あまのりやうの御浄摩風はちんりの花はら香

あまのりやうの御浄摩風はちんりの花はら香

敬慕のたまはる

在原のりやう

四十一

あまのりやうの御浄摩風はちんりの花はら香

あまのりやうの御浄摩風はちんりの花はら香

あまのりやうの御浄摩風はちんりの花はら香

あまのりやうの御浄摩風はちんりの花はら香

あまのりやう

あまのりやうの御浄摩風はちんりの花はら香

あまのりやうの御浄摩風はちんりの花はら香

あまのりやうの御浄摩風はちんりの花はら香

あまのりやう

あまのりやうの御浄摩風はちんりの花はら香

あまのりやうの御浄摩風はちんりの花はら香

夏

古今和歌集卷第九

露様哥

きつこしきし月夜んくまみきし海

安倍仲磨

ゆりの原よりひらねうほりけるうらさしよの月
こころいしれしうらまは海よりうらまは
うらまはにうらまはありまははあまきの年
くそききりうらまはうらまはるる海こころ
うらまはにひらねうらまはうらまははあま
うらまはまをうらまはうらまはうらまは
あまうらまはあまのうらまはうらまは
うらまはうらまはうらまはうらまはうらまは

四

うらまはうらまはうらまはうらまは
うらまはうらまは

たのめくあまうらまはうらまはうらまは
うらまはうらまはうらまはうらまは

小群うらまはの歌

うらまはうらまはうらまはうらまは
うらまはうらまは

宮にそとくさうらまはうらまはうらまは
うらまはうらまはうらまはうらまは
うらまはうらまはうらまはうらまは
うらまはうらまはうらまはうらまは
うらまはうらまはうらまはうらまは

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or record from the previous page. The text is dense and fills most of the page.

古今和歌集卷第十

物名

うぐひす

藤原とよはれ朝臣

ふくさくちのけふちうらつううぐひすとばなをのけふ

ほしひら

くまがたにたぎたれやゆづりあはるるあふ

うぐひす

在原とよはれ朝臣

浪のうせにわらうそあはるるけうの神よのけふ

けふ

土生建岑

にきくまのけふけふけふけふけふけふけふけふけふ

けふ

けふ

けふけふけふけふけふけふけふけふけふけふけふ

けふ

けふ

けふけふけふけふけふけふけふけふけふけふけふ

けふ

けふけふけふけふけふけふけふけふけふけふけふ

けふ

けふ

けふけふけふけふけふけふけふけふけふけふけふ

けふ

けふ

けふけふけふけふけふけふけふけふけふけふけふ

けふ

けふ

けふけふけふけふけふけふけふけふけふけふけふ

けふ

けふ

けふけふけふけふけふけふけふけふけふけふけふ

Handwritten scribbles at the bottom left of the left page.

Handwritten mark at the top center of the left page.

$\frac{x}{r} = 10$

Handwritten mark below the equation.

Handwritten mark at the top center of the right page.

Handwritten text in cursive script, first line.

Handwritten text in cursive script, second line.

Handwritten text in cursive script, third line.

Handwritten text in cursive script, fourth line.

Handwritten text in cursive script, fifth line.

Handwritten text in cursive script, sixth line.

Handwritten text in cursive script, seventh line.

Small handwritten mark at the bottom center of the left page.

